

平成30年（第12回）みどりの学術賞受賞者

くまがい よういち

熊谷 洋一（74歳） 東京大学名誉教授、兵庫県立淡路景観園芸学校名誉学長

功績概要：「自然環境の保全管理の基本となる景観影響評価方法論の構築と自然環境についての国民への理解と普及への貢献」に関する功績

自然環境の保全管理に関する環境影響評価において、従来の大気・水と生態系の観点に加え、景観という観点を組み込むことを提案するとともに、映像機器によるシミュレーションやコンピューターを用いた予測技術を開発するなど、景観や触れ合いの場としての自然環境への影響を的確に予測・評価する手法を確立した。また、自然との共生を目指した環境の創造を担う人材の育成のための実践的な教育を進めたほか、生物多様性国家戦略のとりまとめや国立・国定公園の再評価などにも関わり、学術面とともに実践的な取り組みでもわが国の自然環境保全の推進に大きく貢献した。

しのざき かずこ

篠崎 和子（63歳） 東京大学大学院農学生命科学研究科教授

功績概要：「植物の環境ストレス応答機構の解明と耐性作物の開発」に関する功績

モデル植物のシロイヌナズナを用いて、乾燥や低温、高塩濃度などの環境ストレスの受容や耐性に関わる多くの遺伝子を発見し、複雑な植物の環境ストレス耐性の仕組みの全貌を世界に先駆けて明らかにした。特に、植物が環境ストレス条件下で耐性を獲得する際の鍵となるマスター遺伝子を同定して、この遺伝子を活用すると植物の環境ストレス耐性が強化されることを証明したことは、国際的に高い評価を得た。さらに、この発見をイネ・コムギ・トウモロコシなどの多くの作物に応用し、環境ストレスに強い品種の開発を進めている。これらの成果は、大規模な干ばつなどの気候変動の影響に対応した将来にわたる人類の食料安定生産や地球環境の保全に大きく貢献するものである。

（年齢は平成30年4月27日現在）